

【現状説明】

《大学院》

共通	各研究科では主に、栄養科学研究科は医療機関、教育学研究科は、教育機関、公務員、流通科学研究科においては、小売業やサービス業に就職しています。
----	--

《大学》

栄養科学部	病院・医院の管理栄養士は 23 名（前年 38 名）でした。公務員就職者は 17 名（前年 8 名）で増加、管理栄養士 3 名、栄養教諭は 4 名、家庭科教諭 6 名、事務 4 名でした。就職者中の企業就職割合は 32.9%（71 名）で、総合職などの企業決定者でも、食産業への就職が多いのが特徴です。
教育学部	主に小学校教員や幼稚園教諭、保育士などの専門職としての就職を目指す本学部では、就職決定者のうち 89.9%が専門職の進路を選択しました。 教員採用試験では受験者 135 名中、実数で 86 名が現役合格を果たし、幼稚園教諭・保育士として 77 名が就職、うち公務員が 4 名となっています。
流通科学部	決定率は、98.5%と昨年から微減しました。卒業生から進学者を除いた就職率は 93.5%となっています。職種別の内訳では総合職の割合が全体の 37.9%と最も高く、続いて営業職 28.7%、事務職 14.6%、販売職 7.3%の順でした。総合職の中でも卸小売業の割合が 29.8%と最も高い結果でした。

《短期大学部》

食物栄養学科	就職希望者のうち、栄養士としての就職は 73.3%で昨年より 9.8%減少しています。栄養士のうち保育園の割合（54.6%）が高く、次いで受託給食の 22.8%となっています。企業就職者は、26.7%で昨年度より 9.8%増加しました。その他、18 名が進学（4 年制大学への 3 年次編入）をし、管理栄養士免許取得を目指しています。
キャリア開発学科	決定率は 99.2%（前年比 0.1%減）となり、卒業生から進学者を除いた就職率は 94.2%となっています。内訳では事務職 40.0%、総合職 20.0%、販売職 10.8%の順でした。事務職の中では卸小売（40.3%）、次いで建設（15.4%）となっています。 卒業生のうち、2 名が進学（4 年生大学への 3 年次編入）をしています。
幼児保育学科	就職決定率 10 年連続 100%と大変好調です。就職決定者のうち 98.4%が幼稚園教諭または保育士に就き、専門職就職率の高さが示されました。うち公務員が 6 名となっています。職種別割合は幼稚園教諭 49.7%、保育士 48.7%となっています。卒業生のうち 4 名が進学（4 年制大学に 3 年次編入）をしています。